

# 環境マネジメントシステム

「GD100」の下、世界同質のグローバル環境経営を目指す横浜ゴムグループは、環境経営の基本を環境マネジメントの国際規格である「ISO14001」に置き、その認証取得を積極的に推進しています。同規格の下、法令遵守、監査、教育・啓発、環境リスク対応に取り組んでいます。

## ISO14001／2004年版による環境管理の推進

横浜ゴムグループ一体となった環境経営を実現するため、環境マネジメント規格「ISO14001」の導入を進めています。すでに横浜ゴムの国内全工場と国内グループ会社4社、及び海外グループ会社6社が認証を取得しています。2007年度までに、横浜ゴム本社及び全海外グループ生産会社で「ISO14001」の導入を完了する予定です。

### 「ISO14001」認証取得状況

		認証登録年
国内	横浜ゴム 尾道工場	1999年7月
	三重工場	1998年12月
	新城工場	1999年5月
	三島工場	1998年7月
	平塚製造所	1999年7月
	ハマトイト工場	1999年7月
	平塚東工場	2001年10月
	茨城工場	1999年6月
	長野工場	2001年10月
	浜ゴム興産	1999年7月
浜ゴムエンジニアリング	1999年7月	
ヨコハマタイヤ東日本リトレッド	2006年5月	
山陽リトレッド	2006年5月	
海外	ヨコハマタイヤ フィリピン	2000年9月
	YHアメリカ	2002年11月
	ヨコハマラバー(タイランド) カンパニー	2003年6月
	協機工業	2001年8月
	杭州横浜輪胎	2005年10月
台湾横濱輪胎	2005年12月	

## 法規制の遵守

現行法の遵守を徹底するだけでなく、世界の動向を把握するため広く情報を収集し、それを全社で共有しています。各地の生産事業所では、当該地域に適用される法規制を調査、整理し、法律や条例以上に厳しい自主基準値を設けています。2005年度は、法、条例、協定などの規制値を超えた国内生産事業所や事故、違反はありませんでした。

## 環境監査体制

トップ診断、全社監査、外部審査、内部監査の監査体制で、環境パフォーマンスの向上と環境リスクへの対応を図っています。

### ■ トップ診断

トップ診断は2004年の南雲忠信社長就任時から、社長が各生産事業所の環境対応現場に出向き問題解決に取り組んでいます。2006年6月に三島工場を診断し、環境パフォーマンスと環境リスクへの対応を中心に指示を行いました。

### ■ 全社監査

全社監査は、環境保護推進室が、法令遵守、コンプライアンスの観点から、環境関連法、条例、協定書、社内規定などの遵守状況を現地で照合監査するものです。2005年度は延べ8日間実施し、化学物質管理、廃棄物管理を中心に22の不適合点を是正し、リスクの未然防止に役立てました。

### 全社監査で見出した不適合事例

不適合事例
作業手順書に、工場使用副資材の品番が明記されていませんでした。副資材にかかわる手順書へ品番明記を行い、副資材の管理を徹底して下さい。
産業廃棄物処理業者との委託契約書の見直し(数量、単価、最終処分場所)の改廃がされていませんでした。すべての契約書記載事項の見直しと契約の改廃管理をして下さい。

### ■ 外部審査(ISO14001)

ISO審査登録機関によって、横浜ゴム全工場に延べ47日間、「ISO14001／2004年版」の規定事項について、特に本来業務の環境対応に関し審査を受け、全事業所とも認証を更新しました。

### ■ 内部監査(ISO14001)

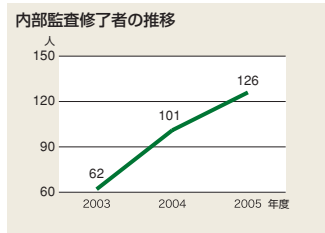
ISOの規定に基づき、2005年度は全工場に延べ26日間実施しました。内部監査を通じて、本来業務の環境への取り組みについても多くの改善点が指摘されました。内部監査員は126名が活動中です(2005年5月)。

### 平塚製造所における指摘事項件数の推移

	2003年度	2004年度	2005年度
改善の機会に関する指摘総件数	42	47	29
製品や設備アセスメント関連 設計、設備開発、化学物質管理など	6	8	5
本来業務への環境対応関連			
目的・目標・実行計画関連他	21	14	8

## 教育・啓発

新入社員に対しては、集合教育によって、環境問題全般の知識習得、法規制や世界動向に関する最新情報の提供を行っています。2001年から、内部環境監査員を養成するための「養成セミナー」を実施しています。セミナーでは、自社事例研修によって、環境全般に関する知識、法令、監査技術を学習しています。さらに毎年2月の省エネ月間、6月の環境月間には、社長から全従業員に対し、全社的に取り組むべき重点課題を伝えています。



6月環境月間の社長メッセージ

## 環境リスク

### ■ 工場での緊急事態訓練

各工場ではそれぞれの操業内容に合わせ、緊急事態を想定した環境汚染防止訓練を実施しています。横浜ゴムでは燃料や原料に液状物質を扱っているため、緊急時における液状物質の工場外流出防止が最重要課題になっています。このため様々な経路からの流出を想定し、最適手順を業務に携わる全員が共有するため訓練を重ねています。

### リスクコミュニケーション実施状況

	平塚製造所	三重工場	三島工場	新城工場	*他工場計
実施時期/回数	2006年3月/年1回	2006年3月/年1回	2005年11月/年1回	2006年5月/年1回	
開催数	初回	2回目	3回目	4回目	
参加人数	38名	26名	12名	6名	
苦情件数(2005年)	1	19	4	0	1
苦情の内訳(2005年)	25件中、臭気9、騒音9、大気汚染(粉じん)4、その他3				



近隣自治会役員などを招いての工場見学会(平塚製造所)



地域住民を招いての工場見学会(三島工場)



地区総代を招いての工場見学会(新城工場)

\*他工場=尾道、茨城、平塚東、長野工場。これらの工場はリスクコミュニケーションを未実施

### 想定した液状物質流出の事例

運送用トラックの燃料タンク破損により軽油が流出した
地下タンク補給時に液がこぼれた
重油タンクローリーからの荷卸時に重油が流出した
オイルタンクから防油堤内に油が漏れているのを発見した
重油タンクの防油堤から重油が流出した
油圧配管破裂により油が流出した
油圧ポンプの洩れにより油が流出した
廃油置き場の廃油ドラムから油が流出した
工場排水溝に油が流出した

## 環境にかかわる苦情

### ■ 環境モニター制度

平塚製造所、三重、三島、新城工場ではモニター制度を設け、工場近隣の住民の方々や従業員に「環境モニター」を依頼して、事業所周辺に及ぼす影響について定期的に調査し、臭気、粉じん、騒音などに対する改善を図っています。

### ■ リスクコミュニケーション

企業活動や環境保全活動についてご理解頂くために、事業所の周辺住民の方々をお招きして、工場環境施設見学会や交流会を開催しています。2005年11月～2006年5月にかけて、平塚製造所、三重、三島、新城工場で開催し、総勢82名の参加者を数えました。参加者の皆さまからは、臭気や粉じんに対する希望が寄せられたほか、下校時の児童の安全を守るための協力要請やアスベスト使用状況、大気汚染・廃棄物埋立状況、廃タイヤのリサイクル状況、セキュリティ対策などのご質問を頂きました。